

シャント関連の知識習得は穿刺ストレスを軽減できる

医療法人衆和会長崎腎病院

○岩永敦子, 米田千恵子, 山中真樹子, 丸山祐子, 原田孝司, 船越 哲

【背景】

過去に当院で実施した透析業務に関する調査では、シャント穿刺をストレスと感じるスタッフが多数を占めている。

【目的】

穿刺についての知識や感情要因を調査し、今後のシャント穿刺教育を検討する。

【対象・方法】

看護師・臨床工学技士を対象としたアンケート方式で、シャント管理に関する知識調査と意識調査を実施し解析する。

【結果】

穿刺に関するストレスは、経験年数や透析全般の知識レベルで差は認められなかった。また、「努力をしている」スタッフはそうではない人に比べてストレスが低い傾向が見られたが、有意差はなかった。一方、経験年数に関係なく63%が「シャントに関する知識・技術の習得」が穿刺に対するストレスの軽減になると感じていた。また、67%は「デモンストレーションによる技術の習得と向上が有効」と答えていた。

【考察】

シャント穿刺に関して、透析全般の知識の習得だけではストレス軽減につながらならず、シャント管理に特化した知識の習得・デモンストレーションによる技術の向上が有効と推測された。